

# あったらいいな! 「木」の授業。



## もくもく学校

～未来へのびる苗木たちへ～

- 1時間目 理科「健康の木」P1・P2
- 2時間目 算数「強さの木」P3・P4
- 3時間目 国語「生活の木」P5・P6
- 4時間目 社会「環境の木」P7・P8
- 放課後 全校集会「アスナロの木」P9
- もくもく学校 「資料館」 P10



もくもく学校

1時間目

# 理科

## 「健康の木」



### ノーベル先生

名前: ウッド・ノーベル  
出身: アメリカ生まれの40才  
血液型: AB型

奥さんはもくもく町出身で、日本に帰化。  
研究熱心で、何ごとにも感動するタイプ。  
アウトドアが大好きで、趣味は釣りとキャンプ。



### 木と金属とコンクリート。生命を育む飼育箱は？

窓から朝日がさんさんとさしこむ教室に、ノーベル先生が大きな箱みたいなものを3つ抱えて入ってきました。「グッドモーニング！」。先生は、まだ眠そうな顔をしているみんなにあいさつして、その箱のようなものを教壇に並べました。「先生、それはなあに？」。教室がざわめきます。「これは、飼育箱なんですね。今日は、これを使って行われたマウス実験についてお話しします」。先生のいう実験とは、静岡県木材協同組合連合会が大学に依頼したもので、木と金属とコンクリート、3タイプの飼育箱にネズミを入れて、成長の様子や行動を観察したのでした。「ハイ、みなさん。これらの箱のなかで、ネズミが住むのにベストだったのはどれでしょう？」。先生は口もとに指を広げてネズミみたいなヒゲをつくりながら、みんなに問いかけました。「金属かな。だって丈夫だし、ネズミが安心していられそう」「たくさんの家族が住む大きなマンションは、みんなコンクリートできているわ」。かえってくる答えは、金属やコンクリートが多いようです。そのとき、保健係りのマリアさんが「もし、わたしだったら木がいいわ。だって、金属やコンクリートって、冷たくて固そうなもの」。そう、ネズミのことを気つかうようにいいました。

### 生存率も体重増加も、木の飼育箱がダントツ！

「ワンタフルマリアさん」。ノーベル先生は、そういって教壇から身をのりだしました。この実験でわかったのですが、温かい時期に飼育箱で生まれた子ネズミが、23日後に生きていた割合は、木が85・1%、金属が41%、コンクリートが約6・9%。大きな差が見られたのです。「木はじかにふれても冷たくないし、汗をかいても湿気を吸いこむので、ネズミが弱ってしまうことなく、元気に育ったんですね」。ノーベル先生が、そのわけを教えてくださいました。「先生、じゃあ、金属とコンクリートの飼育箱は、体力のある子ネズミしか住めないんだ。ぼくは耐えぬける自信があるけど」。すもう部のマワシくんが、笑いながら太ったからだをゆらし、ます。「ハイ！ マワシくん。でも、体重を比べても、一番増えていたのは、やっぱり木の飼育箱の子ネズミだったんだよ。金属やコンクリートに住み続けていたら、体力じまんのマワシ君だって、ストローみたいに細くなってしまうよ」。先生の言葉にクラスみんなは大笑い。マワシくんも、それは困ったというように頭をかきました。



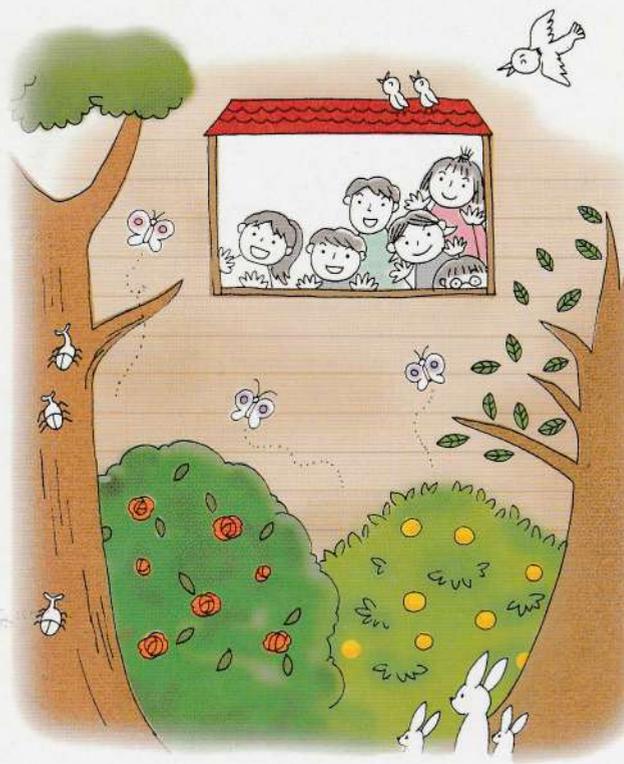
快適な環境が、母と子のきずなを深めてくれた。

「さらに、ネズミの行動を毎日、観察することで、もっと大事なことがわかったんです」。ノーベル先生はマウス実験の結果を、さらにほりさげていきます。「それは、木の飼育箱では、お母さんネズミが寝るんで子ネズミにたっぷりお乳を与えていたし、子ネズミどうしのケンカも少なかったのです」。そういながらノーベル先生は、赤ちゃんをやさしく抱くしぐさをしました。「じゃあ、木の家に引っ越したら、うちのママもやさしくなるのかな」。しみじみそういった、うっかり君に、「それは、君がよく宿題をし忘れるからですよ」と、ノーベル先生が笑いながらクギをさしました。木の飼育箱は、冷えにくく、ジメジメしにくいので、ネズミたちはイライラすることなく、仲良しファミリーでいられたわけですね。やさしいお母さんネズミに育てられて、木の飼育箱の子ネズミたちは幸せだったことでしょう。住む環境が生きものの気持ちや行動にまで影響を与えてしまう。そんなことを気づかせてくれる実験でした。



### イライラや疲労感がつのりやすいコンクリート校舎。

「でも先生。この実験はあくまでもネズミを使ったもの。人間には当てはまらないんじゃないですか?」。夏休みに昆虫を百匹集めたファールくんが虫メガネをふりながら、反論しました。「あいかわらず、ファールくんの質問はナイスですね。では、この資料を見てください」。ノーベル先生は、そういながら用意してきたプリントをみんなに配りはじめました。そのプリントには、木造校舎とコンクリート校舎で、人にも与える影響を比べたレポートがのっていました。みんなはそれに目をとおりながら、「えっ! 木造校舎よりコンクリート校舎にいる先生や生徒の方が、イライラしたり、疲れたりすることが多いんだ!」。「それに、ケガや風邪をひく割合もコンクリート校舎の方が高いわ」。みんなは、ただ驚くばかり。だって、このレポートはさっき先生が話したマウス実験の結果と、あまりにもよく似ていたからです。「みんなOKかい? ネズミでも、人間でも、不快な環境にいれば、イライラがつのり、疲れやストレスがたまりやすくなるんですね」。ネズミも人間も同じ生きもの。自然に近い環境にやすらぎを覚えるのは当然のこと。みんなは、あらためてそれに気づいたようです。



### 今日のまとめ

- 1 飼育箱の子ネズミの生存率(23日後)は、木が85%、金属が41%、コンクリートが6%。
- 2 子ネズミの体重増加や臓器の発達も木の飼育箱が一番良く、開眼日も早かった。
- 3 木造校舎はコンクリート校舎に比べて、先生や生徒のイライラや疲労感が少ない。

### 課外授業

#### 好きな床材をネズミに選ばせてみたら?

マウス実験では、他にもネズミが好んで休息する床材を調べました。コンクリートの飼育箱を二分し、それぞれちがう床材をしき、まん中に穴をあけました。そして、1時間おきにネズミがどちらで休んでいるかを観察。それを2日間続けた結果、スギ>ヒノキ>クッションフロア>塗装合板>コンクリート>アルミニウムという順番で、ネズミに好まれることがわかりました。



実験: 静岡大学農学部



もくもく学校

2時間目

# 算数

## 「強さの木」

材料の本当の強さを比べてみると。

「木と鉄とコンクリート、さて、一番強いのはどれかな」。かずま先生が、そんな質問をしました。2時間目の算数の授業は、材料の強さがテーマです。「そんなの鉄にきまつてるよ」。みんなが口々にそういいます。ガキ大将のケンタ君がイスから立ち上がり、「先生！車だって、電車だって、船だって、がんじょうなものはみんな鉄でできているよ」といって、得意そうに力こぶをつくりました。「ザンネン。ところが、なんと木が一番強いんだ」。先生は、口をポカンとあけているみんなを愉快そうにながめてから、こうタネあかしをしました。「まず、強さは公平に判定しなければね。ボクシングも、レスリングも、柔道も、みんな体重別で戦うだろ。だから比強度ではかるんだ」。「ヒキヨウド？」。みんなは首をかじげました。「比強度とは、重さあたりの強度のこと。つまり木と鉄をおなじ重さにして、強さを比べてみるんだ」。みんなは、なるほどというようにうなずきました。

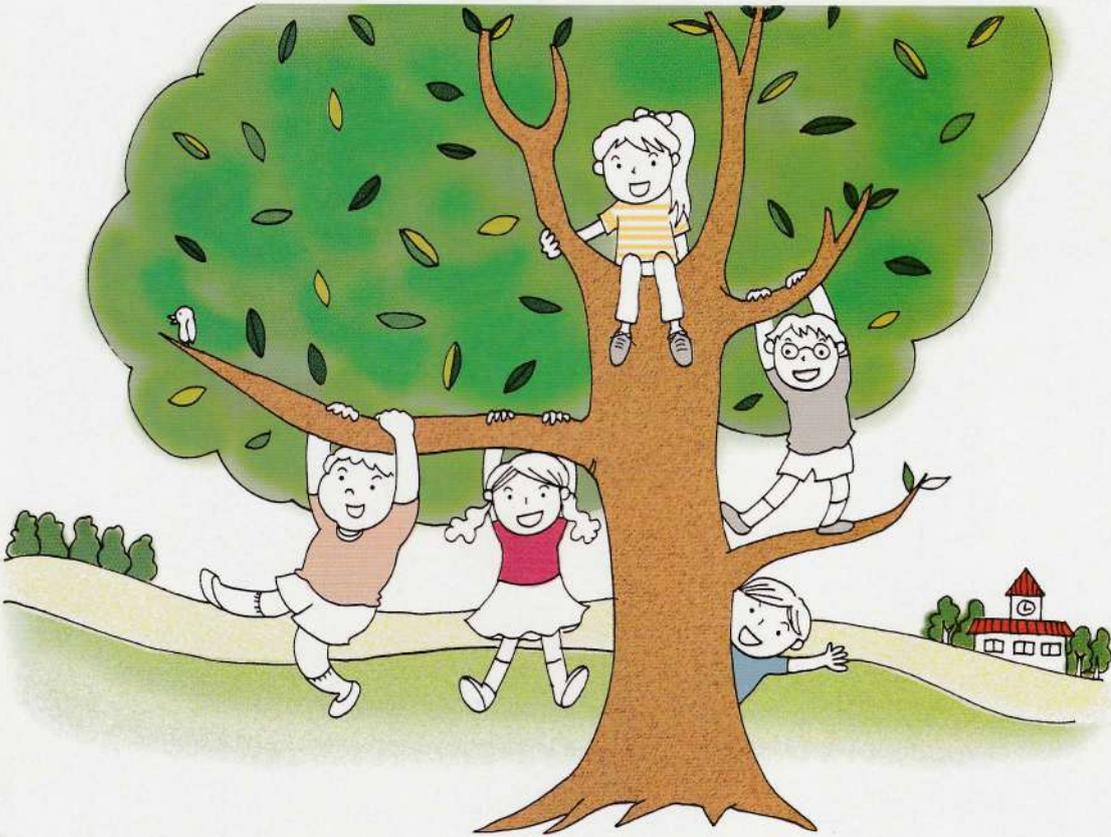
木は軽くて丈夫な、フライ級チャンピオン。

先生は、次に、黒板に大きく、4“という数字をかいて「木の、引っぱる力に耐える強さは、鉄の約4倍もあるんだ」と教えてくれました。そして、そのとなりに、6“という数字をかきながら、「さらに、圧力に耐える力もコンクリートの約6倍の強さをもっているんだ」と自慢げにつけくわえました。「へへすこい！」。教室中がわきたちます。そうなのです、軽くて弾力のある木は、見かけよりもはるかにパワフル。たとえば、昔の飛行機はみんな木でつくられていたくらいです。第二次世界大戦をむかえる頃になっても、イギリスのモスキートという木造機が、まだまだ現役で大活躍。軽くてスピードが出るため、鉄でできたドイツ戦闘機が追いつけなかったという有名な話が残っているくらいです。

### かずま先生

名前: くく・かずま  
出身: 東京生まれの25才  
血液型: A型

独身で、もくもく町のアパート暮らし。  
将棋やチェスなどの勝負事が大好き、そろばん1級。  
ひそかに「こずえ先生」にあこがれている。



表面が焦げることで、木は火から身を守る。

「でも、木は燃えやすいから、火に弱いわ」。サクラさんが納得できない顔をして先生にいました。じつは、ちよつと前に、どんぐり横町で火事があったとき、彼女は、その焼けあとを見に行ったのでした。「サクラさん、あなたが見た焼けあとのようすをよく思い出してください」。先生にいわれてサクラさんは、しばらく考えてから、みんなに、こんな報告をしました。「木の家は焼けこげていました…。あれ、まっつて、たしかに黒かったけど、家のかたちはそのまま残っていたわ」、「よく思い出したね、サクラさん」。先生は、どうして木の家がくずれなかったのかを、みんなにこう説明してくれました。「木は燃えはじめる」と表面がスミになって、酸素がとおるのをカットしてしまうのです。だから、火が木の内部にまで燃え進むのに時間がかかるんです。「そうか、まだ木の芯まで燃えていなかったから、家の形がのこっていたのね」。サクラさんは、そういって手をうちました。木は30分間燃え続けたとしても、表面が24ミリ程度こげるだけ。だから、柱やハリに太い木を使えば、それだけ火災に強い家になるわけです。



木は伐採後も、永い歳月を友として第2の人生へ。



日本には、木でつくられた古いお寺や神社、民家などがまだまだ残っています。かずま先生はしめくくり、木の寿命についてとりあげました。「みんな、奈良県にある法隆寺って知っているよね。あの寺院は何年前に建てられたと思う?」。法隆寺は、日本で最初に世界文化遺産に登録された、世界で一番古い木造の建築物です。「100年前かな」、「いや300年はたっているよ」。教室のあちこちからいろんな答えが返ってきます。しばらくして先生は、「800年前!」、と答えた子に、「近い賞」をあげました。「いいかい、みんな。法隆寺は建てられてから1300年以上もたっているんだよ」。先生から正解を聞かされて、みんなの目がいっせいに丸くなりました。もし、みんなのおじいさんやおばさんが80歳だとしたら、法隆寺はその16倍以上も長生きしていることになりました。「法隆寺はヒノキ造りなんだ。ヒノキは伐られてから200年間、は逆に強度が増していくんだ。そのあと、何百年も、強度がほとんどおとろえないんだよ」と、先生はしめくくりました。そう、しっかりと手入れをしてあげれば、木は伐られて家となつてからも、永く生き続けることができるのです。

課外授業

風土に磨かれ、地域の住文化を伝える古民家。

静岡市産女にある牧野家は、150年ほど前に建てられたといわれる旧家。外壁や屋根の改装、部屋の増築などを経ましたが、太い柱や梁、引き戸や建具などは当時のまま。室内のいたる所に素晴らしい材や巧みな手仕事が見られ、朽ちることをしらない木の強固な骨組みが、今も暮らしを支え続けています。



玄關の格子戸、雨戸や引き戸、味わいと強さを秘めて、太い木組みが高い天井に広がる。使込まれた木の引き戸やふすまが、時に磨かれた風合いを放つ。

協力:渡辺悠氏(悠建築設計事務所)

今日のまとめ

- 1 木の引っぱり強度は鉄の約4倍、圧縮強度はコンクリートの約6倍。
- 2 木は燃えはじめると表面が炭化して、内部への燃焼をふせぐ。
- 3 ヒノキは伐採後200年間は強度が増し、その後も強度低下はゆるやか。





もくもく学校

3時間目

# 国語

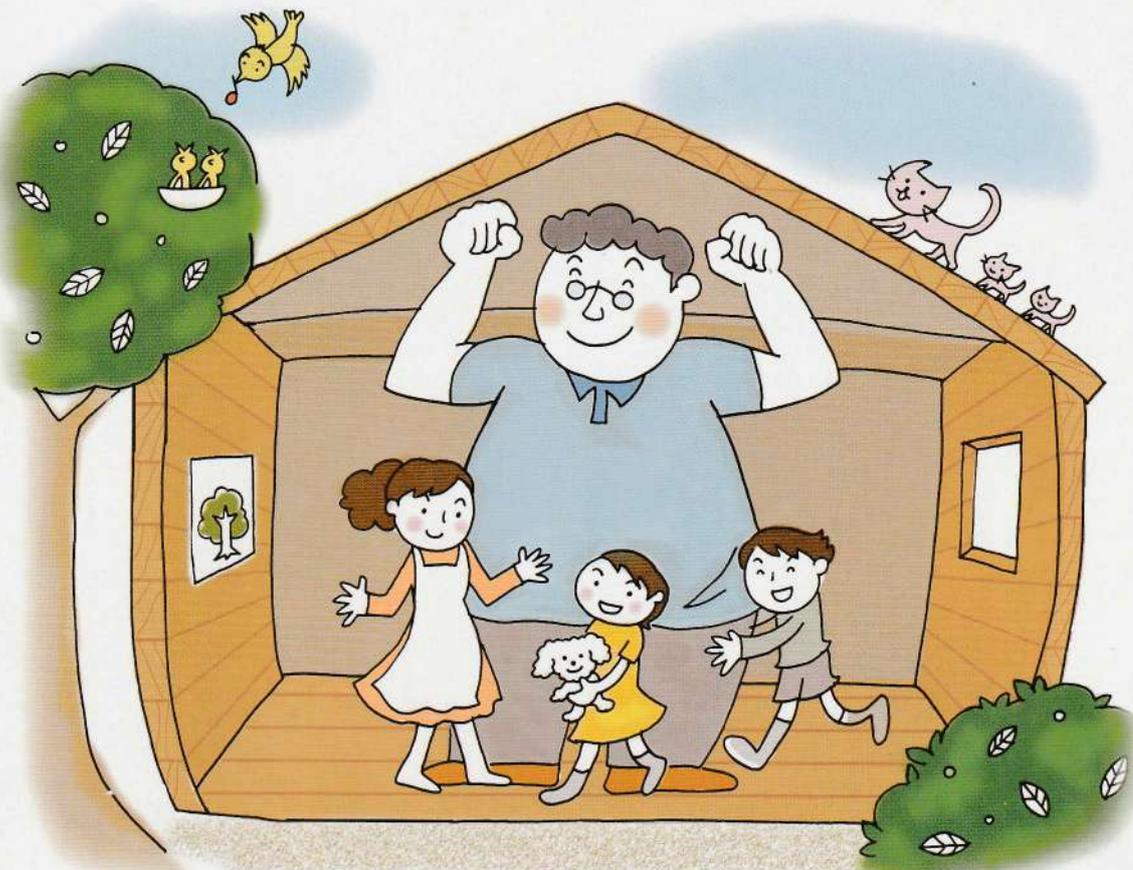
## 「生活の木」



### こずえ先生

名前:こくぶん・こずえ  
出身:東京生まれの22才  
血液型:B型

もくもく学校1年目のフレッシュ先生。  
大学では国文学科で、日本の伝統文化に興味しんしん。  
はきはきした性格で、意外にもスポーツ万能。



ことわざは、生活の中から生まれた知恵。

「みなさん、ことわざの中には、木にまつわるものがあるわよね。知っていたら、発表してね!」。国語担当のこずえ先生は、言葉の面から、人と木とのつながりをみんなに教えようとしています。「ハイ!ハイ!ハイ!」、3人の生徒の手がいきおいよくあがりました。まず、体操部のあんなは君が「猿も木から落ちる。つまり、その道の達人でも、ときには失敗することもある、ということですよ」、と答えました。「10点満点!」と、先生はまるで審判員になったように判定しました。続いて、登山部のピッケル君が、「木を見て森を見ず。えくと、意味はよくわかりません」と、だんだん小声になってしまいました。「その意味はね、小さなことにとらわれて、大事なことを見おとしてしまうことなのよ」と、こずえ先生がフォロワーしてくれました。でも、「すずしい大樹のかけ」と、落語部のしんうち君がつつこみをいれて、クラスじゅうが大爆笑。「しんうち君、それをいうなら、寄らば大樹の陰。頼るなら、大きくて力のあるものに頼った方が安心できる、ということでしょう」。先生はそういうながら、笑いがおさまらない口元を、教科書でかくしました。

同じように「前」がつくけど、「建前」と「面前」は大ちがひ。

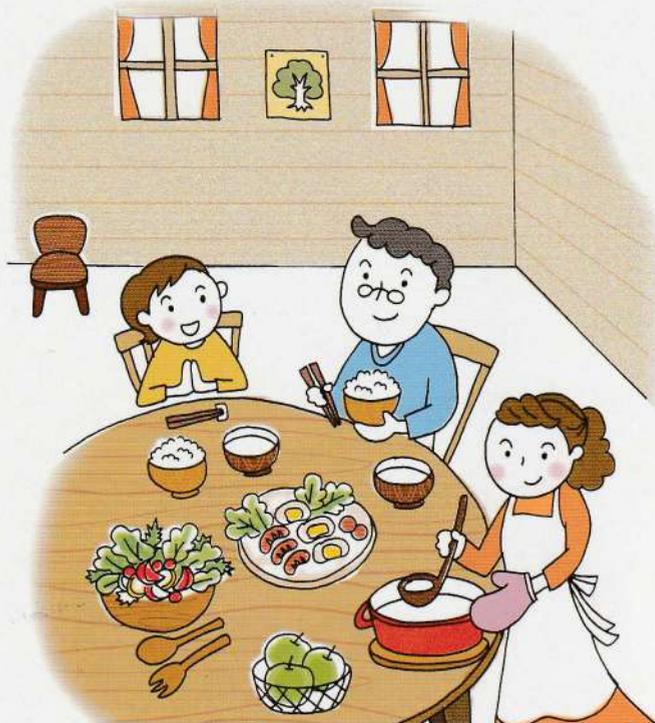
「次は、さらにしほりこんで、木の家にかかわる言葉を取りあげてみましょう。きのう、先生が辞書で調べてみたら、これもたくさんみつかったわ」。先生は、そうまえおきして、チヨークをとりました。今度はさっきの質問より、少しむずかしいようです。黒板に「大黒柱」と書いたのを見て、すぐに手をあげたのが、水泳部のひやけ君。「まっ黒い大きな柱」と、小麦色の笑顔で答えました。「たしかに、漢字の意味はそのとおりだけど、これは、家を支える大きな柱。転じて、一家を支えている人をさして、大黒柱とよぶのですよ」。へーッ、みんなは、たとえかたのうまさに感心しました。次に書いたのは「建前」です。みんなが考えこんでいると、アイドル志望のセイコちゃんはずかしそうに手をあげて、「かっこいい男の人のこと」と、答えました。「さんねん、それをいうなら男前。建前とは、柱や梁など、家のおもな骨組みをつくること。それが、外見「や」おもてむきを意味するようになったの。「先生、それでよく大人の人が、本音と建前がちがう“っていうのね」。やった!セイコちゃんは、いまの失敗をとりもどしたようです。

「うだつ、羽目、コケラ、几帳面」。みんな木製の言葉。

先生は、ほかにもこんな例をあげました。「うだつが上がらない」。家が完成する前に、屋根をのせるために棟上げをします。でも、それができないこと。つまり、いつまでも成功できない、パツとしない、張ることをさします」。また、「羽目板の「羽目」とは、板を並べて平らに張ること。これが上手にできないので、あぶない羽目におちいる」とか、「羽目をはずす」という言い方が生まれたのよ」。さらに、「新しい劇場で初めておこなう出しもの」のことを、「コケラ落とし」というわよね。このコケラとは木材の削りクズのこと。そのクズをほらい清めてから舞台にのぞむ、という意味があるのよ」。最後にもうひとつ、「みんなも、きちんとした性格の友だちを、几帳面「つてよぶけど、もともと、几帳面とは、建具の角を丸くけずり、その両側に段状の刻み目を入れた面のこと。これがくるいなく仕上がっている状態を、人の性格になぞっているのよ」。先生の言葉の話は、どれもこれもオモシロイものばかり。みんなは全部おぼえて、お父さんやお母さんにも聞かせてあげようと思いました。



木は使うほどに、味わいと親しみが深まっていく。



「木は昔から日本人にとって、一番身近な材料。縄文や弥生時代の遺跡からも木製品が発見されているくらい古い付き合いなのよ」。先生のいうとおり、ひと昔前まで、住まいや家具、そして日常の生活道具にいたるまで、ほとんど木が使われていたのです。「でもそのうちに、木の食器がプラスチック製に、木の鉛筆がシャープペンに、木の机や椅子がスチール製に、かわっていったってしまったのね」。使い捨てがきき、大量生産できる材料に便利さをかんじてしまったのね」。先生がさびしそうにいうと、「でも、先生、ぼくはこの木の机が好きだよ。木の鉛筆だつてとっても手になじむような気がするし」。そういいながら、書道部のかいしよ君がじぶんの机をいたわるようになれました。「便利さだけをれば、たしかに、木よりすぐれた材料はあるわ。でも、あらためて木にふれてみると、その手ざわりや自然の木目に心がなごんできて、やっぱり、木っていいなあと思うの」。そういった、こずえ先生の言葉には実感がこもっています。みんなも、賛成するように大きな拍手をおくりました。

課外授業

親子で読んでみたい「木や森の童話」。

書店の童話コーナーに立ち寄ると、木や森をテーマにした童話が背表紙を見せて並んでいます。年代やお国柄もさまざまですが、いずれも人にとって自然の大切さ教えてくれるものばかり。この冊子「あったらいいな！木の授業」を製作した静岡県木材協同組合連合会からも、「芽ばえのリブレ」や「緑ちゃんのヒーリングハウス」といった童話風のパンフレットが出ているので、ぜひみなさんも読んでみてね。



今日のまとめ

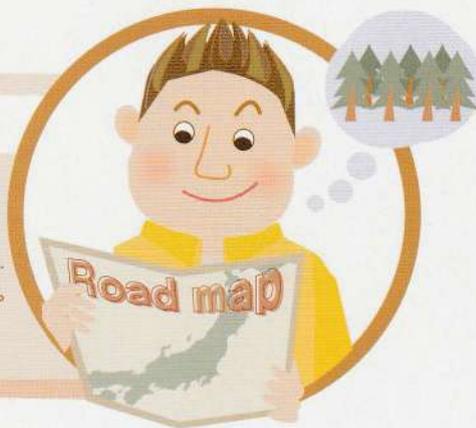
- 1 日本人と木のつながりを伝える生活の言葉が、今でも生きています。
- 2 椀、盆、皿、箸など身のまわりの調度品でも、私たちは木に親しんできた。
- 3 スローライフ、スローフード、ゆとりある心の時代へ木の復権。



もくもく学校

4時間目

# 社会 「環境の木」



## ちり先生

名前:こくど・ちり  
出身:北海道生まれの35才  
血液型:O型

子供の頃から地図に興味をもち、近所を歩きまわる。これまで日本各地の原生林を探検。手作りの水晶入りコンパスが自慢。



### 日本は、世界有数の豊かな森の国。

もくもく学校の教室の窓から緑の山ながみが見えます。真上にのぼった太陽が木々の葉をあざやかに輝かせはじめる頃、4時間目の社会の授業がはじまりました。「みんな、日本ってほんとうに森が多い国だよね」。ちり先生は、そういうしながら、黒板に大きな世界地図を貼りつけはじめました。国土に占める森林の割合を「森林率」といいます。この数字が多ければ多いほど、森林資源が豊かであることをしめています。先生は、まず、「この森林率についてみんなに教えたあとで、「それでは、みんな、日本の森林率って何%ぐらいだと思う？」と質問しました。でも、いっせいにわきあがった「先生、ヒント！」の声に負けて、ちり先生はみんなを黒板の前に集めました。「ヒントはこの地図の中にあるよ」。みんなは、押しあうように世界地図をのぞきこみます。190カ国の中の小さな日本。しかし、その列島の北から南まで、緑におおわれています。「先生わかった！半分？いや、それ以上が森林だよ」。そう、いま、みんなが気づいたように、日本の森林率は約66%。フィンランドやスウェーデンと並んで、日本は世界でも有数の森林国なのです。

### 森が多いのに、木材自給率が低いのはなぜ？

「でも、こんなに森が多いのに、日本で使う木材の80%以上は輸入されているんだ」「えー！先生、そうなの？」。みんなが不思議そうに先生に問いかけます。その時です。青い目をした男の子が発言しました。「先生、ボクのババの国では、木材の自給率は300%もあつて、使い切れないぶんを他の国へ輸出しているんだよ」。トロントくんです。彼のババはカナダ人で



ママは日本人、国際感覚にあふれる転校生なんです。「自給率か、トロントくんはむずかしい言葉を知っているね。みんないいかい、自給率とは、じぶんの国で使われる木材のうち、じぶんの国の木材でまかなわれている割合のことなんだ」。先生が自給率の意味を、そうわかりやすく説明してくれました。日本の木材自給率は、約18%という低い数字。まるで国技である相撲界のように、日本の木材市場も外国勢におされぎみなのです。日本の森林資源を活かすためにも、私たちの風土が育てた国産材を応援していきたいですね。



## 省エネ素材である木は、また炭酸ガスの缶詰。

「ちょっと、理科の話になってしまいかもしれないけど」。先生はそう前おきして、最近、国際的なテーマとなっている環境問題を、木とおしてみんなで考えてみようと思いました。「木材がすぐれているのは、まず少ないエネルギーで生産できること。鋼材の23分の1、アルミニウムの290分の1の炭素量で、同じ重さの材料を生産できるんだ」。それを聞いて、みんなの目が輝きはじめました。「次に、木が吸収した炭酸ガスが家になってもそのままたくわえられるんだ」。「先生、それなら木を使って家をたてて、長く住んであげれば、環境にやさしくしてあげられるのね」。チャームさんが、大きな目をウインクさせながらさういいました。「そのとおりだよ、チャームさん。炭酸ガスは、地球温暖化をまねいている大きな原因のひとつだよ。木を資源として上手に使えば、炭酸ガスの発生量をへらすことができるんだ」。そういって先生は、世界地図のまん中に指でピースサインをつくりました。



## 森林資源の循環が私たちの環境を守る。

「木は、石油や石炭とちがって、自然が育んでくれる、つぎのことのない資源なんだよ。」木を使う↓植える↓木を使う↓植える。「この循環をつくるのが、森を元気にして、炭酸ガスの吸収に役立つんだね」。先生の話を聞くうちに、みんなは木や森の働きがだんだんわかってきました。そうなのです。山が荒れはててしまえば、空気をきれいにして、水をたくわえる緑のダムとしての働きができなくなってしまう。先生は、外国の木材を輸入することが悪いといっているのではありません。先生は、外国の木材を輸入することが悪いといっているのではありません。ただ、クラスのみんなが大きくなって家をたてる時、輸入材にくわえて、国産の木材も自由に選べるようになってほしい、と思っています。最後に先生は、「日本には、林業や製材業、木工業、建築業など、たくさんの方が木にかかわる仕事をしているから、こんど、みんなで職場見学に行ってみよう」と、いいました。「行こう！行こう！」、みんなも大喜びです。きつといい話しか聞ける、ちり先生はそう期待して、来月のスケジュール表を広げました。



## 課外授業

### 緑の少年団は、森づくりの小さなリーダー。

緑の少年団は、次代を担う子供たちが、自然とのふれあいの中で心豊かな人間に育つことを目的として結成されました。「緑を愛し、森を守り、森を育てる」をテーマに、森の働きや自然への理解を深める学習活動、県民参加の森づくりに協力するボランティア活動、ハイキングやキャンプなど自然に親しむレクリエーション活動を展開。各県ごとに緑化推進委員会が窓口となって、緑の少年団の活動を支えています。

協力：(社)静岡県緑化推進協会



## 今日のまとめ

- 1 日本の森林率は約66%で、世界でも有数の森林資源を誇っている。
- 2 木は少ないエネルギーで生産ができるエコロジーな素材。
- 3 木を利用することで、森林資源の循環が生まれ、炭酸ガスを抑制できる。





もくもく学校

放課後

## もくぞう校長

名前:ざいらい・もくぞう  
出身:もくもく町生まれの60才  
血液型:O型

子供たちをのびのびと育てる自然体教育が信念。  
あたたかな人柄で先生や生徒からの信頼もあつい。  
趣味はカラオケで、おはこは「青い山脈」。



全校集会

「アスナロの木」

子供は、木とともに未来にのびるアスナロ。

おいしい給食を食べて、昼休みが終わったら全校集会の時間。1年生から6年生まで、全クラスの生徒が校庭に集まりました。もくぞう校長が、「ゴホン」とひとつセキをして、声をはりあげました。「みんな、今日の木の授業はどうじゃったかな。もくもく学校は、ユニークな先生ぞろいじゃから、いろんな切り口から木について学ぶことができたらよろう」。校長先生がそう話すように木の魅力はひとつではありません。理科から社会まで、今日の授業のそれぞれが、これまで知らなかった、気づかなかった木の魅力を、みんなに教えてくれるものでした。さらに、校長先生はこう続けました。「木は学校の教材としても、とても意味のあるものなんじゃ。子供の頃から、木に親しんで、その風合いや香り、温もりを肌で感じることは、とても大切なのだとワシは思う」。自然の時間は、大きくゆっくりと流れています。もくぞう校長は、未来にのびるアスナロのように、みんなにのびのびと育ててほしいと願っているようです。

木は、みんなの暮らしや自然環境とつながっている。

「みんなは”スローフード”という言葉を知っておるかな。これは、地元でとれる安全な食べものをもっと口にしようというもの。同じように”スローライフ”は、生活にゆとりを取りもどそうとすることなんじゃ」。もくぞう校長は、自然素材の木と一緒に暮らすことも、そんな人間らしい生き方のひとつだと考えているようです。木には生活の実感があります。木でつくられた家は、暮らしの思い出を刻みながら、家族の心をつないでくれる、そんなやさしさがあります。「木は家や家具、木製品となって、みんなの暮らしとつながるだけじゃなく、地域の森、自然、そして大きく地球環境へもつながるものなんじゃ」。いま校長先生の話聞いてる子供たちが、これから木を活かし、森を育てる主役となる日もそう遠くはありません。キンコンカーンと、終業のチャイムが校庭に鳴りひびきました。「これでワシの話はおしまひ。あつ、そうじゃ。帰る前に、もくもく資料館へ立ちよってみなさい。ためになる資料がそろっておるぞ」。もくぞう校長はそうつけくわえて、ニッコリとほほえみました。

# もくもく学校資料館

それぞれの授業の参考資料が収まっているから、ぜひ、みんなも読んでみてね!

子ネズミの体重変化(温暖期)



成長の早いマウスは飼育実験に最適。飼育実験にマウスを使ったのは、妊娠期間が20日、生後20日で乳離れをし、さらに20日もたては繁殖できるといふように発育がとても早いからです。動物を使って材料の居住性を比較するこの独自の実験は、大きな注目を集め、興味深い事実が明らかになりました。木の飼育箱にかぎり、マウスの生存率が高いことや成長が早いということは、あきらかに動物の生活環境としてすぐれていることを実証しています。

理科

各種材料の比強度の比較



自然から授かった、木の尊い生命力。木には自然素材ならではの生命力があるといわれます。その理由は、伐採後も湿度を吸排出したり、永い年月にわたって強度が衰えないからです。木の特性を活かした使い方をすれば、ヒノキは2000年、スギは500年、マツやケヤキは400年の寿命があるといわれます。人工的につくられた素材とは比較にならない木の生命力。私たちはそこに自然の神秘的な力を感じずにはいられません。

算数

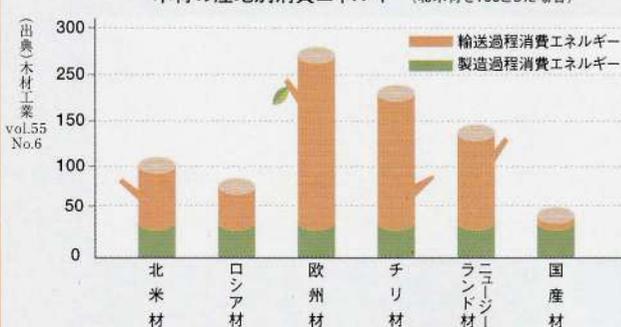
木 = 木  
林 = 木木  
森 = 木木木

木という漢字は、ものの形をまねてつくられた象形文字のひとつです。その文字の原形は、木が地面から突き出ている形や、木が葉や花をかがぶっている形からきているといわれています。

木は、万物のもととなる5つのひとつ。木は古く、中国の漢代に説かれた「五行」という思想の中にあらわされています。五行とはすべての物のもととなる物。それは木、火、土、金、水の5つであり、「木は火を生み、火は土を生み、土は金を生み、金は水を生み、水は木を生む」というものです。漢の時代には、宇宙はこの五行の力によってなりたっていると考えられていたのです。昔の中国人は、木を特別なものとして見ていたのですね。

国語

木材の産地別消費エネルギー(北米材を100とした場合)



環境にやさしいのは、やっぱり木材。社会の授業で、ちり先生が話してくれたように、木材は鋼材やアルミニウムなどと比べて、とても少ないエネルギーで生産できる省エネ素材です。21世紀は環境の世紀。地球温暖化にブレーキをかけるためにも、森林資源を上手に活用していきましょう。木は木と環境にやさしい木材ですが、国産材の場合は、輸入材と比べて輸送に必要な石油エネルギーが節約できるため、さらに環境への負荷が少なくなります。

社会



## けん木ねん

会標 静岡県木材協同組合連合会

〒420-8601 静岡市追手町9番6号 県庁西館9階  
TEL.054-252-3168 FAX.054-251-3483  
e-mail : s-mokuren@mail.wbs.ne.jp  
<http://www2.wbs.ne.jp/~smokuren>

※本資料の無断転載を禁じます。